

東京薬科大学新聞

発行部 編集局
東京薬科大学
〒143-8511
東京都八王子市
東大町1-1432-1
責任者 藤城弘子
平成13年12月17日
発行
<http://www.toyakunews.hoops.ne.jp/>

退職教授インタビュー

東薬での思い出を語る



化学教室

山田泰司教授

山田泰司教授は昭和四十四年に東京薬科大学に赴任、五十年に教授に就任された。長い東薬生活の中での出来事などを語っていただいた。

Q 東京薬科大学にまつわる最も印象的な出来事は何ですか。

A 百周年記念事業として、本学が男子部は新宿から、女子部は上野から八王子に移転してきたときの仕事です。私自身が移転の幹事として、渡部教授、須賀教授（当時いずれも助教）と共に「新しい東薬

を創ろう」という情熱に燃えていました。あらゆる面に関して連日連夜遅くまで議論しました。金銭潤滑油も多かった。この移転を機に教育研究環境も整い、やとと大学らしい研究が出来るようになりました。

Q 今までで一番印象的な研究は何ですか。

A 大学院を卒業して、スイス工科大学に留学し、その当時最も複雑な化学構造をもつ天然物、ヒタマシニン2の全合成研究に挑むことでした。二十世紀の化学の歴史に残る研究で、ハーバード大学と共に

行われた大事業でした。そして、本学での研究ではいち早く海洋天然物の研究に取り込んだことです。抗腫瘍性海産プロスタグランジン、ステロイド、抗マラリア活性海洋性天然物発見は話題となりました。多くの海洋天然物の全合成を達成しましたが、中でも抗腫瘍性プロスタグランジンの全合成で、名大の野依教授との競争で我々が超えたことは印象に残ります。一分一秒を争う研究の厳しさを学びました。

Q 教授として、化学とは何ですか。

A 化学とは奥深いものです。最近「化学が自然を越えた」という、ある人の発言がありました。言い過ぎであると思えます。

仮に自然界の営みの一つが化学によつて達成されたからといって、またまた多くの解明されるべきことがたくさんあります。薬学と化学は切っても切れない関係にあるので、化学を駆使して真理に迫ってほしいものです。物事の根底

の部分は解明されていないことがたくさんある。化学はそれを解明する一つの手段なので、仮に一つが解明されても、自然を超えたことにはならないと思っております。

Q 退職後、やりたいことはありますか。

A 忙しい日々から開放されれば、はやくはゆっくりしたいと思っています。船で世界を周るのも良いかと。学会などといった国の中で、気に入る所にもう一度行き、グルメリズムに浸りたいです。

Q 最終講義への意気込みを聞かせて下さい。

A 講義内容はまだ決めていません。今までの出来事を中心に様々なことを語りたいと思っています。

Q 東薬生への一言をお願いします。

A 東薬生は皆、それぞれ良い資質を持っています。何事にも真剣に取り組み、好奇心、センスを十分に養ってください。また、友人関係をもっと大切に考え、先輩達に続いて、自信を持って世界にはばたけるよう頑張ってください。



第二衛生化学教室

渡部烈教授

渡部教授は、薬物代謝分子毒性学を専門とし、昭和三十一年から講師として在籍、五十年に教授に就任し、現在に至る。

Q 東京薬科大学にまつわる最も印象的な出来事は何ですか。

A 一つは、やはり大学の八王子への移転です。時は激しい学生紛争の時代。私は若手ということもあり大学移転に関し、学生と大学との橋渡し役として同期の須賀教授、山田教授、と共に団体交渉にしばしば臨みました。学生側の要求を理事会に一つでも多く

取り入れてもらい、どのような形のキャンパスを造るか問題で、両者の板ばさみとなり、辛いこともたくさんありましたが、今では楽しい思い出です。

もう一つは平成十一年に今まで長い間かけて築きあげた研究室チームの代表としてその成果が評価され、日本薬学会賞を受賞したことです。

Q 一番印象に残った研究は何ですか。

A 東薬生は皆、それぞれ良い資質を持っています。何事にも真剣に取り組み、好奇心、センスを十分に養ってください。また、友人関係をもっと大切に考え、先輩達に続いて、自信を持って世界にはばたけるよう頑張ってください。

この一部の研究論文はSCIENCE誌にも載り、今では世界中の教科書にも取り上げられています。

一定説と言われるものは全く別の、新しい視点から同じ「物事を見る」これが研究にとって最も大切なことだと感じています。

Q 退職後何をしたいですか。

A 平成十三年度から富山医科大学にも動いています。「漢方薬の安全神話を崩す」と萌芽的研究を立ち上げました。このプランは既に開始しており、先方の大学院生との共同研究を通じて興味深い成果が出ています。

他にも委員を務めている厚生労働省の化学物質安全性対策部会および調査会での活動も続けていくつもりです。

Q 最後に学生に対して一言お願いします。

A 「有言実行」、目的意識を持って勉強だけでなく、人間性、社会性、HUMANISMを学んでほしい。

人生PHILOSOPHYについて（ギリシア語philosophos = 愛 Sophos = 知恵からなる）まさに意欲に燃え、人生をPHILOSOPHYしている渡部教授の最終講義は「ソリフジン薬」について。平成五年、わが国で開発された新薬によってもたらされた、多数の患者の急死、将来の薬剤師、医師のバイブルとすべく、分子生物学の手法を駆使して明らかにされた薬害を講義する。

第二衛生化学教室

山川敏郎教授

この大学に勤務して三十年、「学ぶ」という姿勢に常に前向きな山川教授がこの度退職される。

Q 東京薬科大学にまつわる最も印象的な出来事はなんですか。

A 大学の移転でしょうか。私は東京薬科大学卒業後、カリフォルニア大学での経験から、大学移転を別の視点から見る事ができるということで委員会に参加したため印象に残っています。

(二面に続く)

生労働省の化学物質安全性対策部会および調査会での活動も続けていくつもりです。

Q 最後に学生に対して一言お願いします。

A 「有言実行」、目的意識を持って勉強だけでなく、人間性、社会性、HUMANISMを学んでほしい。

人生PHILOSOPHYについて（ギリシア語philosophos = 愛 Sophos = 知恵からなる）まさに意欲に燃え、人生をPHILOSOPHYしている渡部教授の最終講義は「ソリフジン薬」について。平成五年、わが国で開発された新薬によってもたらされた、多数の患者の急死、将来の薬剤師、医師のバイブルとすべく、分子生物学の手法を駆使して明らかにされた薬害を講義する。

薬味

最近、宗教の絡んだ問題が増えてきている。少し前の身近な問題ならば、オウム真理教によるサリン事件。今では中東の紛争も宗教が事の発端となっている。もちろん、マザー・テレサのように宗教により多くの人が救われることもある★として地球環境問題はどうか。現在、私たちは様々な問題に苦しんでいる。例えば地球温暖化、オゾンホール、砂漠化など悩みの種は尽きない。そして、私たちはそれらの問題に対しては色々な対策を練っている★だが、宗教に関する問題には私たちがほとんど対策を立てていないのではないだろうか。時として宗教は多大な犠牲を強いることがあふ。宗教がきっかけとなった紛争などは、環境問題に匹敵するほどの被害を私たちに与えている★と言える★時代ではますます文化的、宗教的な問題が生みやすくなってしまっている★。しかし、昨日の情勢から判断するに、それに対する心構えはできていないようだ。人は目に見えるものに対しては敏感に反応しているが、目に映らないものに対しては気にしな過ぎるのではないだろうか★宗教問題は私たちの深い部分に根付いているために気がつきにくい。私たちはそのことをもう一度考えてみるべきだろう。

(つぎ)

地中海のめぐみ オリーブとブドウ

今回の特別展では地中海沿岸で豊富に取れるブドウとオリーブの栽培で繁栄した文明が取り上げられている。これらの果実は今日の食卓でも身近なものにそれぞれ加工されている。

ところでワインが五千年以上前から存在したことをご存知だろうか。現在はどこでも飲めるものだが、昔はブドウそのものの収穫量が少なく、限られた地域でしか生産されていなかった。そのため、ワイン自体が信じられないほどの高価で取引されていた。更にその製造法も非常に原始的で、ブドウの実を足で踏んで汁を絞り出して壺に集めるものといった清潔なイメージとは程遠いものだった。

しかし、人々が酒の味を覚えたのはワインからだとも言われている。

またオリーブといえば、漬物や油が思い浮かぶだろう。無論漬物としても食卓に出るが、その多くは油に加工される。昔はまず、最初に実を石臼でつぶし、それを袋に詰め、袋を重ね合わせてプレスする方法で生産されていた。それからローマ時代(紀元前一世紀～三世紀)に入ると大規模な工場生産が行われるようになった。こうした手段でとれた油は次第に使い道が増え、ランプの燃料、

医薬品、オリーブ石鹸などの化粧品、更には神への捧げ物としても重要な役割を果たすようになっていった。料理用油として身近なオリーブオイルも、化粧品店やドラッグストアへ行けば意外な形で見つかるかもしれない。

常設展では、世界最古の文明が生まれた古代オリエントと呼ばれる地域(現在のエジプトや西アジア地方)の変遷や、最初に発明された文字、そして現在の世界にも通用する様々な発明品(貨幣、装飾品、一部の生活用品など)を展示している。更に、現代ほど進歩したテクノロジーのない時代に建てられたとは思えない巨大な建造物の遺跡の写真も飾られている。他に、当時の文化にまつわる芸術的な遺品が数多く展示されている。特別展のついでに目を向けてみてはどうだろうか。

本展はサンシャインシティ文化会館七階古代オリエント博物館にて来年三月十日まで開催。開館時間午前十時～午後五時。休館日は展示替え期間及び年末年始。池袋駅東口徒歩十分。東池袋駅(地下鉄有楽町線)から徒歩五分。入館料一般五百円、大学生四百円。

私は最初、この大学の女子部に赴任しました。アメリカでの経験もあり、たくましく女子学生を期待してきました。この期待通り女子学生はしっかりしていて、実習のやり直



(二面から)

しに遅くまでへこたれず付いてきてくれたことはとても嬉しいことでした。Q、今まで一番印象に残った研究は何ですか？ A、三つの研究を柱にしてきましたが、中でも二つの研究

に大きな印象を持っていました。一つは「細胞の分化について」、バクテリアを対象にDNAが持つ重要な働きに焦点を当てた研究です。もう一つは「腫瘍抗原(分子)の生合成について」であり、ヒトの胎盤は出産後アポトーシス(細胞死)をおこすことに目を向けて研究しています。ヒトの胎盤は人間の組織細胞の中で唯一論理上使用できる細胞であり、薬物作用やウイルス感染の研究に役立つと期待されています。Q、退職された後やりたいと思いませんか？ A、東大応用微生物学研究所

にいたこともあり、微生物の育種の改良を研究したいと考えています。「DNAを操作してきた」をテーマに講義するという研究で東農大のグループと一緒に予定しています。それとともに東農大大学院の非常勤講師も続ける予定です。Q、最後に学生に対して一言お願いします。 A、この大学では力のある学生が勉強していると思っております。しかし、アメリカの学生と違い、危機感の低いからか勉強に対して目的意識が低いと思います。もっと高い目標を持って取り組んでください。

最終講義では学生時代も含め東京薬科大学を通し「こういう人間が、こういう生き方をしたい」というテーマに講義する。私たちの「学ぶ」姿勢を見直す良い機会となることだろう。

先日、平成十四年度の新部門長が決定した。そこで新聞会では新部門長の方々へ今後一年間の抱負を伺った。

○体育部長 湯山 健洋 自分はこの度平成十四年度体育部長に選出されました。生命科学部 年の湯山健洋です。自分はいままで体育長に対して、とても気難しく、比較的暗いイメージを持っていました。しかし実際体育会に入ってみると大変力強く、今に至っては体育会に所属していることを誇らしく思えるほどになりました。そして、そのような自分が体育部長となったことで、より一層気持ちを引き締まりました。自分たちはこれから体育会の代表として体育部門を運営していくわけですが、各団体の目指す方向は必ずしも同じ

ではないと思います。自分はその差を一つにするのではなく、それぞれの特色を高めるための橋渡しの役割を担っていきたく思います。まだまだ未熟者ですが全力でこの任に当たっていきたく思いますので、皆様よろしくお願ひします。○文化情報部長 吉崎 幸太郎 これから一年間文化情報部長を引き継ぐことになりました。吉崎幸太郎です。現在それだけの部は他の部と関わる機会が少なく、なかなか知り合うことができません。今後は部門が中心となつて少しでも各団体の意見を取り入れ、文化部門をより発展させていきたいと思います。

また自分からいことばかりで迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがよろしくお願ひします。○学術情報部長 片岡 直也 私自身、どんな部門になるのか未だに予想さえしにくいのですが、私が考えている新部門の方針は「新しい観点から発想していく」です。今までの学術部門のスタイルを基盤に、初心者集団だからこその発想を活かしていきたく思います。○同好会長 長宗我部 慎一 私はこれまで同好会に所属し、同好会コンパ、スポーツ大会等の同好会行事に参加してきましたが、これからは主催する側になります。いろいろな大変なこともあると思いますが、各方面の方々のご協

力をお願い自分なりに頑張りたいと思います。また体育祭や東薬祭の行事にも同好会が参加し、本大学の同好会が存在感を高めていきたいと思います。これから始まる事に不安を覚えながらもやる気は十分に持っています。私並びに同好会共々よろしくお願ひします。

十年前に別れた主人公順正とヒロインあおい。その十年後二人は偶然フィレンツェで再会するが、変わりすぎたお互いに戸惑いを隠せない。二人を結びつけるのはあおいの三十歳の誕生日にフィレンツェのクーポラで待ち合わせるという他愛のない約束。その約束の中で生き続ける確かなる想い。あなたはもう見たらどうか？ 本編では多くの重要なキーワードが存在する。カラスの絵、女性の絵、そして絵画の修復士。これらのキーワードは主人公、阿形順正の十年の軌跡とその中に眠る想いを見事に表現し、本作品を彩らせている。そして、本編を語る上で必ず挙げなければならないのが、順正とあおいが再会した場所、約束の地フィレンツェ。キーワードの修復士ともかなり深く関わるこの地で男女のやりとりは本編の醍醐味と言えよう。ざりざりの線で行われるこの駆け引きに、思わずつばを飲み込む。この作品、正直も

どかしい部分もある。しかし、そのもどかしい部分にこそ男女の深層心理が働いている。別れた二人が同じ道を再び歩む、そのことの難しさ。過去を修繕するというこの本当の意味、それを是非見てほしい。また知っている人も多いと思うが、本作は「冷静と情熱の間 Rosso」と「冷静と情熱の間 Blu」という二冊の本が原作となっている。前者は江國香があおいの視点で、後者は辻仁成が順正の視点で十年に及ぶ愛の軌跡を描いている。二人の作家が交互に執筆していくこのスタイルは、まさに疑似恋愛のようだが、だからこそリアルで痛みがあり心に響く。この二冊の本を掛け合わせた赤でもなく青でもない紫の作品、それを是非あなた自身で感じてもらいたい。現在シネマ系列で絶賛公開中。

冷静と情熱の間

研究室ランダムウォーク

薬学部

公衆衛生学教室



別府正敏教授

今回は、環境因子と健康の関係について研究を進める、公衆衛生学教室の別府正敏教授にお話を伺った。

Q、現在の研究内容について教えてください。

A、衛生とは、人の健康を「衛」の字で言います。我々の身の回りには紫外線や環境ホルモン、ダイオキシンなどの環境問題から食中毒、毒劇物事件まで人の健康に関わる数多くの問題があります。一

般に衛生学の研究の目的は、そういった環境因子から人の健康を守ることであり、それらに基づく疾病や健康障害を予防することも研究の対象となります。その中でも、私たちが公衆衛生学教室では、環境ストレスが生体にとどのような影響を及ぼすのか、また、それに対する防御機構を、主に細胞レベルで実験、検証しています。

Q、「環境ストレス」とは何でしょうか？
A、ストレスと言うと精神的なものも思い浮かべてしまうかもしれませんが、生体に影響を与える物質的な外的環境の変化を総称して、環境ストレスと呼びます。私たちの研究はこの環境ストレスと生体の関係、具体的には、環境ホルモンなどの化学物質や活性酸素、異物化した自己成分等が、免疫機能、アポトーシス、細胞分化等の生理現象に与える影響とそのメカニズムおよびその防御機構を調べています。

また、体内の糖質が組織と反応してしまうことでできるメイラード反応後期生成物の毒性を調査したり、その臨床検査への応用を考えています。

Q、研究の展望についてお聞かせ下さい。

A、近年は過敏症、アレルギーの症状に悩む方が非常に増えています。そのひとつ、身の回り以外のこと、自分の専門以外のこと幅広く興味を持ってほしいですね。若くて感受性が豊かなうちに色々なものに触れてほしいと思います。

ています。その背景には、何らかの環境因子が免疫の機能に影響を与えていることが考えられます。他にも、免疫系が関与する疾病は数多く知られていますが、私たちの研究は、これらの疾病と環境因子の関連性を解明する一歩になると考えています。

Q、研究室の構成についてお伺いします。

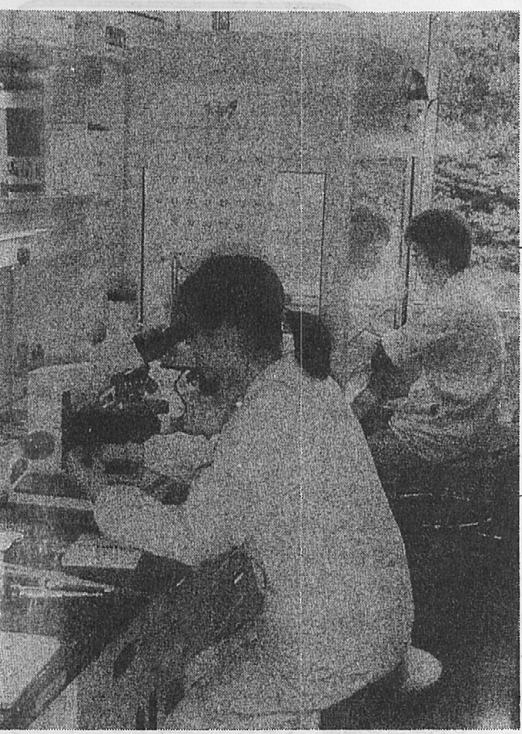
A、スタッフが四名。学生は大学院生が四名と卒業生が十七名の計二十一名です。遅くまで残って実験に夢中になる情熱いっぱいの方が多く、頼もしい限りです。それから、みんなお酒は「決して嫌いではない」ですね。

Q、最後に、本学の学生へ一言お願いします。

A、まず、学生の皆さんには大きな目標を持つてほしいと思います。最近では、普段の生活に慣れきってしまい、自分の目標を見出せないまま授業を受けている人が増えているような気がします。大きな達成感は大きな目標があつてこそものだと思います。

それともう一つ、身の回り以外のこと、自分の専門以外のこと幅広く興味を持ってほしいですね。若くて感受性が豊かなうちに色々なものに触れてほしいと思います。

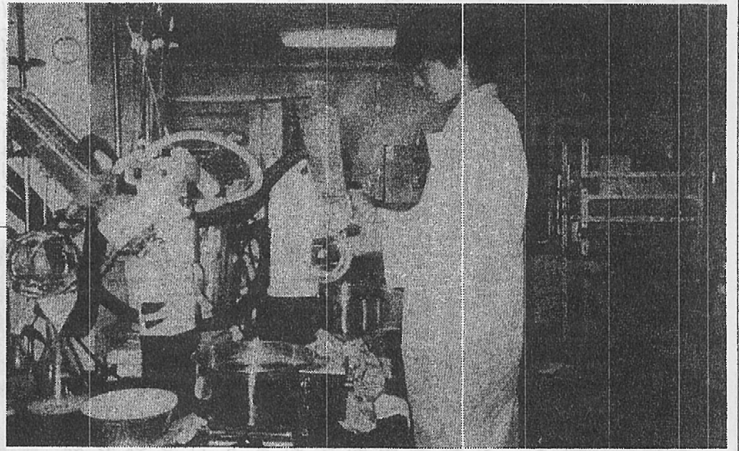
別府教授はとても気さくな方で、質問にも丁寧にお答え頂いた。公衆衛生学教室の更なる発展を期待したい。



生命科学部 生物有機化学研究室



井口和男教授



有機化学を通じて分子レベルでの生命科学の研究を行っている生物有機化学研究室の井口和男教授に、以下のようなインタビューを行った。

Q、この研究室の研究内容について教えてください。

A、有機化学の視点からライフサイエンスにアプローチすることが研究の基本です。低分子量で生理活性のある天然化合物を媒体にして、様々な生物の生命現象の解明を目指して、以下の五つの研究を展開しています。

(一) 軟体サンゴや海綿などの海洋動物から新たな生理活性化合物を発見し、その化学構造および生体における機能の解明。

(二) 生理活性天然物のエナチオ選択的な全合成、及び合成反応に有用な不斉誘起金属触媒の開発。

(三) 軟体サンゴが生産するプロスタノイドの生合成経路の解明、及びこれに関連する合成酵素に関する発見。

(四) 陸生植物由来の民間薬からの新規生理活性化合物の発見。

(五) キラルな有機化合物の絶対立体配置決定に関する新法の開発。

Q、教授が化学者を志した動機を教えてください。

A、化学薬品の匂いが好きなきっかけから始まり、小さい頃から化学実験に興味を持ったのが化学を専攻にした一番の理由です。

Q、教授がこの研究を始めたきっかけについて教えてください。

A、軟体サンゴなどに含まれる有機化合物の構造決定はとても複雑で知的好奇心を十分に満たしてくれました。有機化合物の合成も面白いし、生命科学部に移ってからは海洋生物の生命現象にも大きな興味を持つようになりました。

Q、共同研究の有無について教えてください。

A、研究のテーマに応じて本学、外部研究室などと共同研究を行っています。例えば生命科学部の工藤教授とは工藤教授が見つけ、私もでも合成した物質の脳細胞に対する影響について、また同学部の都筑教授とは上記の(三)の研究について協力しています。

Q、在校生に一言お願いします。

A、学生の皆さんには野心を持ってほしいです。それは、研究に対してでも、他のことであつてもいいです。また、いろいろな力をつけてもらいたい。芋力はもちろん、クラブやイベントなどの企画をして、人を集めて実行するようになります。力がついていけば就職難など恐れることはありません。私たちが後押ししてあげます。

清潔感溢れる研究室では、それぞれが自分の目的をしつかりと抱き、熱心にそして楽しんで研究している姿が目についた。研究内容や井口教授の温厚な人柄、研究室の雰囲気など今まで詳しく知らなかった側面を知ることができた。

Q、研究室の構成人数について教えてください。

A、教員が四名、大学院生が七名、卒業生が十三名です。

Q、共同研究の有無について教えてください。

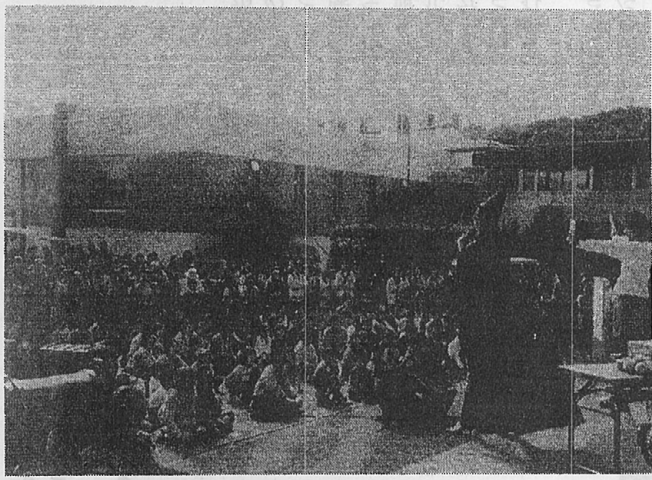
A、研究のテーマに応じて本学、外部研究室などと共同研究を行っています。例えば生命科学部の工藤教授とは工藤教授が見つけ、私もでも合成した物質の脳細胞に対する影響について、また同学部の都筑教授とは上記の(三)の研究について協力しています。

Q、在校生に一言お願いします。

A、学生の皆さんには野心を持ってほしいです。それは、研究に対してでも、他のことであつてもいいです。また、いろいろな力をつけてもらいたい。芋力はもちろん、クラブやイベントなどの企画をして、人を集めて実行するようになります。力がついていけば就職難など恐れることはありません。私たちが後押ししてあげます。

平成十三年東薬祭 好評のONNAに開幕

十一月二日から四日までの三日間にわたり、「薬味祭」をテーマに平成十三年度東薬祭が行われた。この三日間のために東薬祭スタッフをはじめ各参加団体は多忙な生活の中、工夫を凝らし準備してきた。その中心となってきた東薬祭実行委員会は本学最大の団体でもあり、後期授業が始まり薬祭ジャンパーが目立ち始める、秋の訪れを感じる。準備作業も東薬祭の一部であり、東薬祭を開くまでの過程が一番楽しいという意見もある。東薬祭期間中も東薬祭スタッフは七で七で舞ったが、一人一人の表情は明るかった。皆、東薬祭の成功に満足していた。撤収日になり後片付けが始まり、ふと気づくと今年もあとわずかである。準備に追われているとあつという間に数ヶ月が経っていて、東薬祭が東京薬科大学最大のイベントであることを改めて実感した。



特に注目を集めたイベントは一日目の午後に行われたダンス同好会によるステージである。今年新たに設立されたダンス同好会だが、所属人数が多いばかりでなく活動も非常に活発な団体である。ステージは集まっていた人たちだけでなく、通行人も立ち止まり、見ている人々を魅了していた。ステージが終わりカーテイングのときにも多くの人が見入っており拍手と歓声に包まれて、感動的なフィナーレを迎えた。このステージは新たな東薬祭の目玉として加えられるのではないだろうか。

また、薬学と生命科学をより理解するには絶好の機会である東薬セミナーが二日目を中心に行われた。第一部として薬学部病原微生物学教室

の笹津備前教授が「進化する細菌 消毒薬が効かない」と題し、消毒薬に抵抗を示す細菌について講義を、第二部では生命科学部細胞機能学研究室の大島泰郎教授が「生命とは何か 生命の起源から考える」と題して、生命の起源やその初期進化について講義を行った。また、体験実習では実習第八研究室の加藤哲太助教の指導のもと、生化学研究部、微生物研究部、有機合成化学研究部、漢方研究会が

「免疫」をテーマに様々な実験を行った。老若男女様々な人々が訪れ、活気溢れる実験だったが、中には専門的な質問をする人も参加しており、部員は緊張感を持って説明に当たった。これらの講義や実験に参加した学生は普段の学習とは違った貴重な体験ができ、また新たに学問に対して好奇心を抱いたのでないだろうか。

今年の講演会では本学にもなじみの深い丹波哲郎氏が招かれ、受講者は興味深い死後の世界の話に耳を傾けた。

東薬祭期間中開かれていたウエルカム受験生では今年も多くの人が訪れた。本学の学生にもこのイベントをきっかけに本学を受験した人もいることだろう。

各団体による模擬店や展示も大変盛り上がり、中には三十分待ちの店もあった。ガラクタ市も大盛況を見せ、最終日には売りつくすためなのかベッドが百円など驚きの価格で販売されていた。

他にも恒例となった様々なイベントが催され大変盛り上がり、そして最終日最後のイベントである後夜祭、ダンスパーティーで華やかに締めくくられた。こうして今年の東薬祭の幕が下りた。

学園祭も終わり最近では大学も落ち着いてきた。しかし、あちらこちらに新歓キャンペーンについての掲示が見られ、入学試験もそろそろ始まり出したようだ。大学生活は長いよ

うで短い。精一杯青春を謳歌してほしい。

最後に東薬祭運営委員会白根大委員長に東薬祭を終えての感想を頂いた。

「今年も皆様のご協力に支えられ、無事に三日間を終えることが出来ました。終わって見ればあつという間だったという感のある東薬祭でしたが、成功に終わって本当に安堵感でいっぱいです。この気持ち今年度の東薬祭スタッフ一人一人が充実感とともに感じてくれていると思います。しかし、東薬祭が成功するにはスタッフ以外の職員の方々、先生方、各部門の方々の力が大きかったです。この場をお借りして御礼申し上げます。いいと思います。」

「免疫」をテーマに様々な実験を行った。老若男女様々な人々が訪れ、活気溢れる実験だったが、中には専門的な質問をする人も参加しており、部員は緊張感を持って説明に当たった。これらの講義や実験に参加した学生は普段の学習とは違った貴重な体験ができ、また新たに学問に対して好奇心を抱いたのでないだろうか。

01ミス東薬決定!!

東薬祭一日目のステージにて平成十三年度ミス東薬コンテストが開催された。当日は天気も良く、多くの方がステージ前に集まり大変盛り上がりがあった。ミス東薬コンテストは事前の予選にて自薦他薦でノミネートされ、六人に絞込まれた。グランプリの選出方法は様々な質問を審査員が出し、それに対して答えていく方式で行われた。容姿だけでなく、性格面も大きな審査対象になっていた。厳しい審査の中、見事平成十三年度ミス東薬に選ばれたのは薬学部一年鈴木美穂さんである。そこで我々新聞会は鈴木美穂さんにアンケートを依頼した。残念ながら、写真はNGということだがアンケートは快く引き受けてくださった。(右に掲載)

——ミス東薬になられた御感想は?
ビックリです!

——ミス東薬になられた後の周囲の反応は?
特に変化はあいません。

——ご趣味を教えてください。
お鍋パーティ(趣味??)

——好きな異性のタイプを教えてください。
勢揃いできる人やさしい人

——出身地を教えてください。
山梨県です。

——サークル・部活動は何をされていますか?
ウインドストックです。



本年度も東京薬科大学新聞を読んでいただき、ありがとうございました。来年度も引き続き宜しくお願い致します。良いお年を・・・

新聞会一同

行事予定	日	内容
十二月	十二日(水)	交通安全講習会
	二十日(木)	年内授業終了
	二十一日(金)	予備日
	二十五日(火)	冬期休暇開始
一月	八日(火)	授業再開
	二十一日(月)	後期授業終了
	二十二日(火)	予備日
	二十四日(木)	後期試験開始
二月	一日(金)	後期試験終了
	四日(月)	後期試験予備日
	二十一日(木)	
	二十八日(木)	追・再試験
三月	一日(金)	予備日
	十九日(火)	学位記授与式
	下旬	進級・分科発表